



令和元年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

生目台中学校区 令和元年7月25日(木)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆令和元年度のトークテーマ

トークテーマ ～子どもたちの未来のためにできること～

トークの柱 『中学生が参画する地域活動について考える』

10年目を迎えた市長と市民の意見交換会「ふれあいトーク」。今年度からはトークテーマを「子どもたちの未来のためにできること」とし、子どもたちの「教育」について各中学校区単位で意見交換を実施しています。

◆市長から情報提供 とことん住みやすく、力強く発展するまちづくり

●地域の現状等を共有

①宮崎市でも人口減少が進んでおり、今後さらに人口減少が加速する見込みです。

- ・宮崎市全体の人口推移 令和元年 402,415人 ⇒ 令和42年 291,719人 (27.5%減)
- ・生目台地域自治区の人口推移 令和元年 7,407人 ⇒ 令和42年 5,521 (25.5%減)

②若い世代の転出超過が大きくなっています。そのため魅力的な雇用創出と地元で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

- ・宮崎市の年齢別の転入転出数をみると、15～19歳、20～24歳で大幅な転出超過となっています。
- ・市ではそのような現状に歯止めをかけるべく、企業誘致による新たな雇用の創出や、中学生を対象として県内企業を紹介する体験型進学・就職イベントなどを実施しています。

③人口減少が進むことで、地域の課題がより複雑化、多様化しています

- ・人口減少のスピードや高齢化率、歴史・文化は地域によって異なるため、それぞれの地域の特性に合ったまちづくりが求められています。

④地域には様々な組織や団体、行政機能があります。それぞれ連携し、特性を生かしたまちづくりを行いましょう。

⑤地域活動への参加で、元気な地域コミュニティを次の世代につなげましょう。

- ・生目台中学校区での活動例…いきいきサロン事業（子どもカレー）、寺小屋事業、里山整備事業 等



▲生目台中学校区の現状や課題、市が現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

◆ フリートーク

● トーク参加者からの意見

- 地域とPTAが連携した取り組みもあるが、保護者の関心を高め、活動を活性化させることがPTAの課題。PTAが生徒会と一体となって活動することも大切だと感じた。
- 小学生向けのイベントは多いが、中学生も参加できると、縦の関係の中で教え合うことができ、実践を通してのリーダー育成につながる。中学生中心の活動も必要で、その環境づくりをしたい。
- 生目台の3校（中学校1校、小学校2校）は、うまく連携が取れている。PTAの連絡会に生徒会が参加するのも面白い。大人のやることを中学生にも知ってもらい環境を作り、中学生も参画させたい。
- リーダーの固定化が課題。将来を見据え、次の人につなぐことも必要。生目台は「ふるさとづくり」をキーワードに、子どもたちが帰ってくるまちづくりを推進してきた。中学生の気持ちも聞けたので、一緒になってやっていきたい。また、三世代が意見を交わす場というのも大事と思った。



● 中学生からの意見

- 地域に支えられていて感謝しているが、地域の課題について考えてこなかった。生目台中ボランティアサークル(DVC)では、お弁当作りをして高齢者に届ける三世代交流事業に参加し、喜ばれてやりがいも感じている。
- 地域の行事に参加しても、参画には至っていない。DVCの取り組みを地域全体の活動に拡大すれば、地域と中学生と一緒に活動できる。
- DVCのお弁当作りでは、学校で学んだ献立作りにも中学生が参画すれば、参加者が増えるのでは。
- 地域活動は、大人に盛り上げてもらうだけでなく、中学生の目線で関わるのが大切。活動から学ぶことも多い。サマーフェスタの企画も一緒に考えたい。中学生時代の思い出は印象が強いので、地域全体の楽しい活動を経験することで、生目台が好き、生目台に戻りたいという思いが生まれると思う。



● 傍聴席からの意見

- 生目台のまちづくりのために一生懸命に活動している人もいるが、ほとんど関わらない人たちもいる。このような人たちをいかに巻き込む（参画してもらう）かが、これからの生目台の課題だと感じている。
- 高齢化率の上昇と子どもの減少は新興団地の宿命でもある。ただ、私たち世代の子どもの子ども（孫）が、生目台中学校に通っているような例もある。子どもたちが住み続けたいと思う地域にしていきたい。

● 市長からの回答、感想

- まちづくりは人づくり。地域に愛着を持つ人を育てるまちは、子どもたちに「ここに住み続けたい、帰ってきたい」という気持ちが芽生える。本日のトークにもあったが、ここ生目台では中学生がDVCを通じて地域の活動に参画できるのではないかと考えているようだ。子どもたちがまちづくりに参画することで地域に愛着が湧き、地域活動が活発になるモデルになるのではないかと考えている。
- 三世代で意見を交わす場を設けられたらという意見もあったが、ぜひ実現させてほしい。

～参加者アンケートより～

- ★（このふれあいトークが）参観日を利用するなどして、多くの中学生も傍聴できる会になればと思った。
- ★中学生の考えが聞けて良かった。大人が全て用意したお客様としてではなく小中学生が地域行事に参加することがリーダー育成及び全員参加のきっかけになると思う。

〈お問い合わせ〉

宮崎市 秘書課広報広聴室
TEL 21-1705
FAX 29-6547

